

〔巡検会報告〕

湯 島

尚 綱 高 田 代 正 之

11月14日、朝8時30分、太甲橋際のいつもの場所に集合、集まった自家用車計7台、熊本市での人員11名、いつもは車が足らずにぎゅうぎゅうずめで出発するのだが、今回は実にゆったりしている。3号線を南下、宇土駅で、人吉からの会員1名加わり三角へと向う。三角駅でさらに1名加わり計13名、車は三角小学校の校庭において、三角港から定員24名乗りの貸切船に乗り込む。西港沖のツリガネ島をすぎた頃から船がはげしくゆれる。沖縄方面にある台風の影響を受けてか、波は白い波頭をみせている。皆、なんともないような顔をしているけれど内心はおそらくひやひやであろう。ツリガネ島のドームや、大矢野半獄山の安山岩の石切場、海食洞などにカメラを向ける。約1時間半、船にゆられて、湯島に到着、波止場の栈橋や海岸には、太公望がずらり並んであれでは魚の数の方が少ないのではないだろうかと思うくらいである。さて、波止場から左廻りに出発し、湯島

灯台に向かう。海岸は丁度干潮で、熊本ではなかなか得がたい玄武岩がごろごろ転がっている。灯台下の海食台は、凝灰質の泥岩が略水平層をなしており、その中に貝化石がはいっている。化石は殻はなくあとかただけである。兩殻をびったりくっつけたままのものも多い。カガミ貝、赤貝、クシケ貝等の二枚貝やヤツシロ貝等の巻貝などがある。木材片などもかなり多い。この泥岩はまだ完全に団結しておらず、ハンマーでたたくとたたいた箇所がつぶれてしまう。この海成化石層は灯台の下付近からずっと西側海岸まで露出している。ここで中食を取り、しばらく化石採集、玄武岩の標本づくりにハンマーをふるう。玄武岩中には大粒のカンラン石結晶がある。あちこちの小学校の岩石圃にある玄武岩のうち、湯島から採集したというものをみた範囲ではみなあまりよい標本はないと思っていたが立派なものがあちこちにある。1時間半程採集に時間をつぶしたあと、海岸を西廻りに沿っ

てしばらく歩き山へはいる。さきほどの化石層の上にはさらに泥岩層が海岸の道路沿いに水平に重なり、山にはいるとその上位をみていくことになるが、泥岩中にチャート礫に富んだ厚さ1m内外の礫岩層が露れる。海岸におちているチャート礫は、おそらくこの付近から転がったものであろう。数本の礫岩層がみとめられる。泥岩層と玄武岩の境目のみえる露頭につく、玄武岩は風化した赤ちゃけている。湯島の高さからみると丁度中位のところだろう。ここより山道を経て波止場へ下る。午後2時、帰路につく、波は来る時よりもあれているようであるが、今度の船は40名定員の大型船でもあり、ゆれ方にもなれたせい

かあまり心配もなく三角につく。三角港にて解散。最後に、本巡検会のお世話を頂戴した第一高校の徳山、田上両先生に感謝する。

付記 海棲化石を産する泥層は湯島層と呼ばれている。その堆積した時代については確証はないが、島原半島の加津佐層付近に対比され、鮮新～洪積世とされている。

湯島の玄武岩は、湯島層の上部をおおい、皿形の熔岩台地を形成している。おそらく島原半島南部の口之津付近に広く分布する玄武岩との関係が強い。口之津付近では、上位に両輝石安山岩がありともにこれは古い第四系とされている。